

「フランスギク」花に集來する「ヒメマルカツラブシムシ」成蟲と、その捕殺の効果に関する考察

第 二 報

山 田 保 治
谷 口 久 代

緒 言

「フランスギク」花に集來する「ヒメマルカツラブシムシ」成蟲數の多大なること、並びに、其時期と時刻、及び、花に集まる雄雌の關係に就きては、既に第一報で述べて置いた。斯の如く「ヒメマルカツラブシムシ」の成蟲は、「フランスギク」花に多數集來する。従つて、此植物を適當な個所に栽植して、花に集來した成蟲を捕殺することが、從來、本種驅除法中の有效なる一方法であることが稱へられて來た(文獻 1、2、3、5、8)。處が、此誘花驅除法の効果如何は、花へ集來した成蟲が、産卵前なるか、或は、産卵後なるかによつて、左右せらるゝことの極めて大であることは、之に留意するものゝ、特に注意しなければならぬ、重點であると思ふ。此問題に就きては、既に第一報(文獻 7)で少しく觸れて置いたが、相當重要な問題であるので、更に本年「昭和16年」繼續觀察を試みた、其成績の大要は次の通りである。本文を草するに當りて、懇切なる助言を與へられし春川博士に深甚なる謝意を表す。

觀 察 と 實 験

觀察實驗は、第一報の觀察を行なつた同じ試験圃場に咲いた、「フランスギク」花に集來せる、多數の「ヒメマルカツラブシムシ」成蟲の中で、花上で交尾したものだけを採集して實驗材料とした、其總計は26組である、之等雄雌各組の成蟲は、採集の都度1組づゝ容器を別にし、「ペトリシャーレ」(内徑7「センチメートル」、深さ3「センチメートル」)の中に入れ、「シャーレ」の中には、便宜5「センチメートル」角に切つた、黒羅紗を1枚づゝ入れて置いた。

黒羅紗を使つたのは、産附した卵の數を調査するのに便利なためであるからである。斯の如くして、各組の産卵數、その卵の孵化數、及び、成蟲の壽命、等を觀察した、記録の概要は第1表と第1圖に示す通りである。

「フランスギク」花上にて交尾せる「ヒメマルカツヲ
ブシムシ」成蟲各組の産卵と孵化並びに成蟲の壽命

(昭和16年6月乃至同年7月調査)

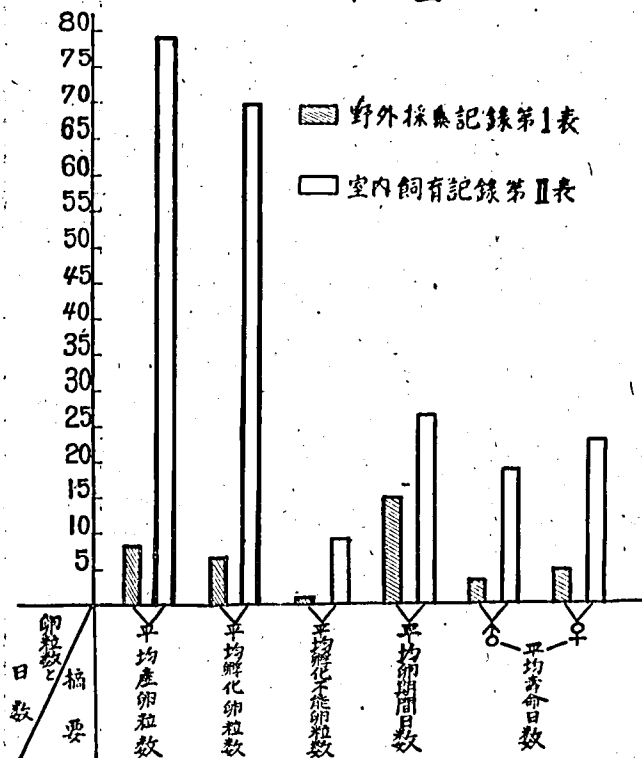
第 1 表

摘要 番 號	性	成蟲採 集期日	産卵期日	産卵 粒數	孵 期 日	孵 化 粒 數	卵の 期間	孵 化 せ る 卵	産卵 期間	成蟲斃死期日と其壽命
1	♂ ♀	VI. 4	—	—	—	—	—	—	—	♂ VI. 18死……壽命4日 ♀ VI. 10ㄱ…… ㄱ 6ㄱ
2	♂ ♀	VI. 4	—	—	—	—	—	—	—	♂ VI. 9死……壽命5日 ♀ VI. 10ㄱ…… ㄱ 6ㄱ
3	♂ ♀	VI. 4	—	—	—	—	—	—	—	♂ VI. 8死……壽命4日 ♀ VI. 11ㄱ…… ㄱ 7ㄱ
4	♂ ♀	VI. 4	—	—	—	—	—	—	—	♂ VI. 7死……壽命3日 ♀ VI. 11ㄱ…… ㄱ 7ㄱ
5	♂ ♀	VI. 4	—	—	—	—	—	—	—	♂ VI. 7死……壽命3日 ♀ VI. 10ㄱ…… ㄱ 6ㄱ
6	♂ ♀	VI. 5	—	—	—	—	—	—	—	♂ VI. 8死……壽命3日 ♀ VI. 9ㄱ…… ㄱ 4ㄱ
7	♂ ♀	VI. 5	—	—	—	—	—	—	—	♂ VI. 10死……壽命5日 ♀ VI. 10ㄱ…… ㄱ 5ㄱ
8	♂ ♀	VI. 5	第I回・VI. 9	8	VI. 25	6	16日	2	1日	♂ VI. 8死……壽命3日 ♀ VI. 10ㄱ…… ㄱ 5ㄱ
9	♂ ♀	VI. 8	—	—	—	—	—	—	—	♂ VI. 9死……壽命1日 ♀ VI. 12ㄱ…… ㄱ 4ㄱ
10	♂ ♀	VI. 8	—	—	—	—	—	—	—	♂ VI. 11死……壽命3日 ♀ VI. 12ㄱ…… ㄱ 5ㄱ
11	♂ ♀	VI. 10	—	—	—	—	—	—	—	♂ VI. 14死……壽命4日 ♀ VI. 14ㄱ…… ㄱ 4ㄱ
12	♂ ♀	VI. 12	第I回・VI. 15	4	VI. 1	4	16日	0	1日	♂ VI. 15死……壽命3日 ♀ VI. 17ㄱ…… ㄱ 5ㄱ
13	♂ ♀	VI. 12	—	—	—	—	—	—	—	♂ VI. 14死……壽命2日 ♀ VI. 15ㄱ…… ㄱ 3ㄱ
14	♂ ♀	VI. 12	—	—	—	—	—	—	—	♂ VI. 15死……壽命3日 ♀ VI. 17ㄱ…… ㄱ 5ㄱ
15	♂ ♀	VI. 12	第I回・VI. 14 第II回・VI. 15	18 2	VI. 30 VI. 1	18 2	16日 16日	0 0	2日	♂ VI. 15死……壽命3日 ♀ VI. 16ㄱ…… ㄱ 4ㄱ
16	♂ ♀	VI. 12	第I回・VI. 13	2	—	—	—	2	1日	♂ VI. 16死……壽命4日 ♀ VI. 17ㄱ…… ㄱ 5ㄱ
17	♂ ♀	VI. 12	—	—	—	—	—	—	—	♂ VI. 15死……壽命3日 ♀ VI. 16ㄱ…… ㄱ 4ㄱ
18	♂ ♀	VI. 12	—	—	—	—	—	—	—	♂ VI. 16死……壽命4日 ♀ VI. 16ㄱ…… ㄱ 4ㄱ
19	♂ ♀	VI. 14	—	—	—	—	—	—	—	♂ VI. 19死……壽命5日 ♀ VI. 19ㄱ…… ㄱ 5ㄱ
20	♂ ♀	VI. 20	—	—	—	—	—	—	—	♂ VI. 23死……壽命3日 ♀ VI. 27ㄱ…… ㄱ 7ㄱ
21	♂ ♀	VI. 20	第I回・VI. 23	1	—	—	—	1	1日	♂ VI. 22死……壽命2日 ♀ VI. 24ㄱ…… ㄱ 4ㄱ
22	♂ ♀	VI. 20	—	—	—	—	—	—	—	♂ VI. 23死……壽命3日 ♀ VI. 25ㄱ…… ㄱ 5ㄱ

摘要 番 號	性	成蟲採 集期日	産卵期日	産卵 粒數	卵期 化日	孵化 粒數	卵の 期間	孵化せ ざる卵	産卵 期間	成蟲斃死期日と其壽命
23	♂ ♀	VI. 20	第I回.VI.22 第II回.VI.23	6 4	VI. 6 VI. 6	6 4	14日 13日	0 0	2日	♂ VI. 22死……壽命2日 ♀ VI. 24ㄗ……ㄗ 4ㄗ
24	♂ ♀	VI. 20	—	—	—	—	—	—	—	♂ VI. 22死……壽命2日 ♀ VI. 25ㄗ……ㄗ 5ㄗ
25	♂ ♀	VI. 20	—	—	—	—	—	—	—	♂ VI. 24死……壽命4日 ♀ VI. 27ㄗ……ㄗ 7ㄗ
26	♂ ♀	VI. 20	第I回.VI.22	12	VI. 6	10	14日	2	1日	♂ VI. 23死……壽命3日 ♀ VI. 24ㄗ……ㄗ 4ㄗ
				平均 8.14粒	—	平均 7.14粒	平均 15日	平均 1.00粒	平均 1.28日	平均壽命 ♂ 3.23日 ♀ 5.00ㄗ

第 1 圖

ヒメマルカツラブシムシ成蟲の産卵、孵化、卵期間、
壽命等に関し、野外フランスギク花上にて採集せる
ものと、自然温度の室内飼育によつて知り得たるものと
の比較圖



之等26組の中で産卵したもの
は7組だけで、他の19組は産卵し
ないで悉く斃死してしまつた。

7組のうち産卵數の最も多い
のは20粒、最も少ないのは1粒
で、之等7組の産卵數の平均は
8.14粒、孵化粒數の平均は7.14
粒であつた。又、卵期間の最も
長いのは16日、短いのは13日
で、卵期間の平均日數は15日と
成る。而して、之等26組の成蟲
を花上で採集してからの壽命日
數は、雄の長いのは5日、短かい
のは1日、平均3.23日。雌の長
いのは7日、短かいのは3日で、
平均5日となる。之等雄雌の壽
命日數を比較すると、雌は雄よ
り長い、何づれにしても、花へ
集來してからの「ヒメマルカツ

ラブシムシ」雄雌成蟲の壽命日數が、極めて短かいことは、特に注意を要する點であると思ふ。

而して、上述「フランスギク」花上で交尾した、「ヒメマルカツラブシムシ」成蟲の産卵と、成
蟲の壽命とに、比較對照するため、自然温度の室内で飼育した「ヒメマルカツラブシムシ」の幼

蟲から、蛹化し羽化し、次で蛹殻から脱出した成蟲を、雄雌1組づゝそれぞれ容器を別にし、前述と同じ大きさの「ペトリシャーレ」の中に入れ、「シャーレ」の中には、之も前述と同様の黒羅紗を入れて、總計19組を造り、之等の産卵状況、並びに、成蟲の壽命を觀察した。其記録の大要は第2表に示す通りである。

自然温度の室内で飼育せる「ヒメマルカツヲブシムシ」

成蟲雄雌各組の産卵と孵化並びに成蟲の壽命

(昭和16年4月乃至同年6月調査)

第 2 表

摘要 番 號	成蟲蛹殻 脱出期日	交 尾 期 日	産卵期日	産 卵 粒 數	孵 化 期 日	孵 化 粒 數	卵 の 期 間	孵化せ ざる卵	産卵 期間	成蟲斃死期 日と其壽命
1	♂…IV.24 ♀…IV.24	IV.24	第I回・IV.29	11	V.24	11	25日	0	13日	♂ V.22死… 壽命28日 ♀ V.22ク… 〃 28日
			第II回・IV.30	34	< V.25 V.26	22 5	25日 26日	> 7		
			第III回・V.7	45	< V.28 V.29	17 26	21日 22日	> 2		
			第IV回・V.11	30	< VI.1 VI.2	26 3	21日 22日	> 1		
			小計120		小計110	平均 23.14日	小計10			
2	♂…IV.25 ♀…IV.24	IV.25	第I回・IV.30	6	V.25	5	25日	1	12日	♂ V.16死… 壽命21日 ♀ V.23ク… 〃 29日
			第II回・V.1	29	V.25	29	24日	0		
			第III回・V.6	34	< V.27 V.28	2 20	21日 22日	> 3		
			第IV回・V.10	23	< V.31 VI.1	18 3	21日 22日	> 2		
			第V回・V.11	11	0	0	0	11		
小計103		小計86	平均 22.5日	小計17						
3	♂…IV.26 ♀…IV.26	IV.26	第I回・V.3	4	< V.26 V.27 V.28	1 2 1	23日 24日 25日	> 0	8日	♂ V.19死… 壽命23日 ♀ V.17ク… 〃 21日
			第II回・V.4	34	< V.26 V.27 V.28	8 24 1	22日 23日 24日	> 1		
			第III回・V.10	21	< V.31 VI.1 VI.4	4 14 2	21日 22日 25日	> 1		
			小計59		小計57	平均 23.22日	小計2			
4	♂…IV.23 ♀…IV.26	IV.23	第I回・V.3	4	< V.26 V.27	3 1	23日 24日	> 0	8日	♂ V.15死… 壽命17日 ♀ V.23ク… 〃 27日
			第II回・V.4	42	< V.26 V.27 V.28	3 35 1	22日 23日 24日	> 3		
			第III回・V.9	2	V.30	2	21日	0		
			第IV回・V.10	31	< V.31 VI.1	30 1	21日 22日	> 0		
			小計79		小計76	平均 22.5日	小計3			

摘要 番號	成蟲蛹殻 脱出期日	交 尾 期 日	産卵期日	産 卵 粒 数	孵 化 期 日	孵 化 粒 数	卵 の 期 間	孵 化 せ る 卵	産卵 期間	成蟲脱死期 日と其壽命
5	♂...IV.29 ♀...IV.29	>IV.29	第I回.V.4 第II回.V.5 第III回.V.9 小計97	25 30 32	V.27 <V.27 V.28 V.30 <V.31	24 29 2 22 8 小計84	20日 22日 23日 21日 22日 平均 21.6日	1 >0 >2 小計3	6日	♂ V.23死... 壽命24日 ♀ V.17ク... ク 18日
6	♂...IV.29 ♀...IV.29	>IV.29	第I回.V.4 第II回.V.5 第III回.V.10 第IV回.V.11 小計54	16 15 12 11	<V.26 V.27 <V.27 V.28 V.31 VI.1	1 15 10 3 10 1 10 小計50	22日 23日 22日 23日 21日 22日 21日 平均 22.0日	>0 >2 >1 1 小計4	8日	♂ V.18死... 壽命19日 ♀ V.21ク... ク 22日
7	♂...IV.29 ♀...IV.29	>IV.29	第I回.V.4 第II回.V.8 第III回.V.9 第IV回.V.12 小計43	18 1 16 8	<V.26 V.27 V.30 V.29 <V.30 VI.2	5 13 1 2 14 8 小計43	22日 23日 22日 20日 21日 21日 平均 20.66日	>0 0 >0 0 小計0	9日	♂ V.16死... 壽命17日 ♀ V.15ク... ク 16日
8	♂...IV.29 ♀...IV.29	>IV.29	第I回.V.5 第II回.V.6 第III回.V.7 第IV回.V.10 第V回.V.11 第VI回.V.14 小計88	3 36 3 5 24 17	<V.27 V.28 <V.28 V.29 V.28 VI.1 VI.1 <VI.3 VI.4	1 2 26 1 2 4 24 15 2 小計77	22日 23日 22日 23日 21日 22日 21日 20日 21日 平均 21.66日	>0 >9 1 1 0 >0 小計11	10日	♂ V.15死... 壽命16日 ♀ V.22ク... ク 23日
9	♂...IV.29 ♀...IV.30	>IV.30	第I回.V.7 第II回.V.11 第III回.V.12 小計37	26 6 5	<V.29 V.30 VI.1 VI.2 VI.2	15 11 1 4 5 小計36	22日 23日 21日 22日 21日 平均 21.8日	>0 >1 0 小計1	6日	♂ V.16死... 壽命17日 ♀ V.22ク... ク 22日
10	♂...V.1 ♀...V.1	>V.1	第I回.V.7 第II回.V.8 第III回.V.12 第IV回.V.13 小計59	3 32 20 4	V.29 <V.29 V.30 VI.2 VI.3	3 14 17 18 4 小計56	22日 21日 22日 21日 21日 平均 21.4日	0 >1 2 0 小計3	7日	♂ V.22死... 壽命21日 ♀ VI.7ク... ク 37日

摘要 番號	成蟲蛹殻 脱出期日	交尾 期日	産卵期日	産卵 粒數	孵化 期日	孵化 粒數	卵の 期間	孵化せ ざる卵	産卵 期間	成蟲死亡 日と其壽命
11	♂...IV.29 ♀...V.1	V.1	第I回.V.7	4	V.29	4	22日	0	} 6日	♂ V.23死... 壽命21日 ♀ V.23ク... " 22日
			第II回.V.8	42	V.29 V.30 VI.4	32 7 1	22日 22日 27日	2		
			第III回.V.12	35	VI.2 VI.4	34 1	21日 23日	0		
			小計91		小計79	平均 22.83日	小計2			
12	♂...V.1 ♀...V.1	V.1	第I回.V.6	21	V.28 V.29	17 3	23日 23日	1	} 9日	♂ V.17死... 壽命16日 ♀ V.23ク... " 22日
			第II回.V.7	26	V.28 V.29 V.30	7 17 1	21日 22日 23日	1		
			第III回.V.11	48	VI.1	34	21日	14		
			第IV回.V.14	24	VI.4	21	21日	3		
小計119		小計100	平均 21.85日	小計19						
13	♂...IV.29 ♀...V.3	V.3	第I回.V.7	14	V.28 V.29	1 10	21日 23日	3	} 5日	♂ V.15死... 壽命16日 ♀ V.23ク... " 20日
			第II回.V.8	11	V.29	7	21日	4		
			第III回.V.11	20	VI.1 VI.2	2 7	21日 23日	11		
			小計45		小計27	平均 21.4日	小計18			
14	♂...IV.30 ♀...V.2	V.3	第I回.V.7	52	V.28 V.29 V.30	22 24 1	21日 22日 23日	5	} 8日	♂ V.16死... 壽命16日 ♀ V.23ク... " 20日
			第II回.V.11	25	VI.1	25	21日	0		
			第III回.V.14	14	VI.4	13	21日	1		
			小計91		小計85	平均 21.6日	小計6			
15	♂...V.2 ♀...V.2	V.3	第I回.V.8	37	V.29 V.30	22 13	21日 22日	2	} 6日	♂ V.21死... 壽命19日 ♀ V.23ク... " 21日
			第II回.V.9	7	V.30	6	21日	1		
			第III回.V.13	38	VI.3	36	21日	2		
			小計82		小計77	平均 21.25日	小計5			
16	♂...V.1 ♀...V.2	V.3	第I回.V.8	3	V.30	3	22日	0	} 9日	♂ V.20死... 壽命19日 ♀ V.24ク... " 22日
			第II回.V.9	52	V.30 V.31	47 2	21日 22日	3		
			第III回.V.12	36	VI.2	34	21日	2		
			第IV回.V.15	9	VI.4	9	20日	0		
			第V回.V.16	3	VI.5	3	20日	0		
小計103		小計98	平均 21.0日	小計5						
17	♂...IV.30 ♀...V.2	V.3	第I回.V.8	47	V.28 V.29 V.30 V.31	1 13 22 1	20日 21日 22日 23日	10	} 5日	♂ V.19死... 壽命19日 ♀ V.27ク... " 25日
			第II回.V.9	7	—	—	—	7		
			第III回.V.12	40	VI.2	36	21日	4		
			小計94		小計73	平均 21.4日	小計21			

摘要 番 號	成蟲蛹殻 脱出期日	交 尾 期 日	産卵期日	産 卵 粒 数	孵 化 期 日	孵 化 粒 数	卵 の 期 間	孵化せ ざる卵	産卵 期間	成蟲終死期 日と其壽命
18	♂...V. 1 ♀...V. 2	V. 3	第Ⅰ回・V. 8	32	< V. 29 V. 30 VI. 4	13 4 1	21日 22日 27日	> 14	7日	♂ V. 21死... 壽命20日 ♀ V. 26死... " 24日
			第Ⅱ回・V. 11	41	< VI. 1 VI. 2	33 1	21日 22日	> 7		
			第Ⅲ回・V. 14	25	< VI. 3 VI. 4	15 6	20日 21日	> 4		
			小計98		小計73	平均 22.0日	小計25			
19	♂...V. 7 ♀...V. 5	V. 7	第Ⅰ回・V. 10	34	< V. 31 VI. 1	26 6	21日 22日	> 2	5日	♂ V. 24死... 壽命17日 ♀ V. 25死... " 20日
			第Ⅱ回・V. 11	8	VI. 4	1	24日	> 7		
			第Ⅲ回・V. 14	23	< VI. 3 VI. 4	6 4	20日 21日	> 13		
			小計65		小計43	平均 21.6日	小計22			
				平均 79.3粒		平均 70.0粒	平均 21.86日	平均 9.3粒	平均 7.73日	平均壽命 ♂ 19.4日 ♀ 23.1日

飼育観察を行なつた、「ヒメマルカツラブシムシ」雌雄19組の中で、産卵数の最も多いのは、120粒、最も少ないのは37粒、平均産卵数は79.30粒で、之等19組の孵化粒数の平均は70.00粒であつた。而して、卵期間の最も長いのは27日、短いのは20日で、卵期間の平均日数は21.86日となる。又、成蟲の壽命日数は、雄の長いのは28日、短いのは16日、平均19.40日。雌の長いのは37日、短いのは16日、平均23.10日となる。上述した所からわかるやうに、自然温度の室内で飼育せる成蟲に於ても、雌雄の壽命日数を比較すると雌は雄より長い。

「附言」

「ヒメマルカツラブシムシ」の成蟲は、羽化後略ほ1週間前後蛹殻内に静止した後(第3表参照)、蛹殻を脱出して活動を始めるのであるが、實驗材料の關係上、第2表に記録してある成蟲の壽命日数は蛹殻脱出後斃死に到るまでの日数を示し、蛹殻内静止期間の日数は算入してない。従つて、「ヒメマルカツラブシムシ」成蟲の實際の壽命日数は、第2表に記録されたものに、更に羽化後蛹殻内静止期間日数を加へたものが、實際の壽命日数となるわけである。次に参考のため、昭和15年6月孵化した、「ヒメマルカツラブシムシ」の幼蟲を飼育し、昭和16年に入つて、蛹の期間、羽化後成蟲の蛹殻内静止期間、並びに、成蟲の壽命、等の判然したものを、雄8匹、雌9匹、に就きての記録を示せば第3表の如くである。

第3表表示の如く、「ヒメマルカツラブシムシ」成蟲の、雄8匹、雌9匹、計17匹の羽化後蛹殻内静止期間日数の平均は、7.66日で、略ほ1週間前後と見ることが出来る。

而して、野外採集記録第1表と、室内飼育記録第2表とを、比較對照して圖示すれば第1圖

の如くである。

自然温度の室内で飼育せる「ヒメマルカツラブシムシ」の
蛹期間、成蟲蛹殻内静止期間、成蟲の壽命に關する記録

(昭和16年3月乃至同年6月調査)

第 3 表

摘要 番 號	性	蛹化期日	羽化期日	蛹の期間	成蟲蛹殻 脱出期日	成蟲蛹殻内 静止期間	成蟲斃死 期 日	成蟲の壽命 日 數
1	♂	Ⅲ. 17	Ⅳ. 21	35日	Ⅳ. 28	7日	Ⅴ. 24	33日
2	♀	Ⅲ. 15	Ⅳ. 20	36日	Ⅳ. 22	2日	Ⅴ. 19	29日
3	♀	Ⅲ. 15	Ⅳ. 20	36日	Ⅳ. 28	8日	Ⅴ. 22	32日
4	♀	Ⅲ. 17	Ⅳ. 21	35日	Ⅳ. 30	9日	Ⅴ. 20	29日
5	♀	Ⅲ. 18	Ⅳ. 21	34日	Ⅳ. 30	9日	Ⅴ. 18	27日
6	♀	Ⅲ. 22	Ⅳ. 23	32日	Ⅴ. 3	10日	Ⅴ. 17	24日
7	♀	Ⅲ. 17	Ⅳ. 21	35日	Ⅳ. 29	8日	Ⅴ. 24	33日
8	♀	Ⅲ. 22	Ⅳ. 22	31日	Ⅴ. 3	11日	Ⅴ. 24	32日
				平均34.25日		平均8.00日		平均29.87日
9	♀	Ⅲ. 17	Ⅳ. 21	35日	Ⅳ. 28	7日	Ⅴ. 25	34日
10	♀	Ⅲ. 22	Ⅳ. 23	32日	Ⅴ. 3	10日	Ⅴ. 30	37日
11	♀	Ⅲ. 24	Ⅳ. 24	31日	Ⅴ. 4	10日	Ⅴ. 25	31日
12	♀	Ⅲ. 14	Ⅳ. 20	37日	Ⅳ. 22	2日	Ⅵ. 6	47日
13	♀	Ⅲ. 17	Ⅳ. 21	35日	Ⅳ. 29	8日	Ⅴ. 21	31日
14	♀	Ⅲ. 19	Ⅳ. 21	33日	Ⅴ. 1	10日	Ⅴ. 26	35日
15	♀	Ⅲ. 17	Ⅳ. 21	35日	Ⅳ. 24	3日	Ⅴ. 29	38日
16	♀	Ⅲ. 19	Ⅳ. 21	33日	Ⅴ. 1	10日	Ⅵ. 1	41日
17	♀	Ⅲ. 18	Ⅳ. 21	34日	Ⅳ. 30	9日	Ⅵ. 6	46日
				平均33.88日		平均7.66日		平均37.77日

概 括 と 結 論

「ヒメマルカツラブシムシ」成蟲の、野外「フランスギク」花上で交尾せるもの26組のうち産卵したものは僅かに7組で、その平均7組當産卵粒數は8.14粒、孵化粒數の平均1組當りは7.14粒であり、之等成蟲の野外花上で採集してからの平均壽命日數は、雄3.23日、雌5.00日である。

室内飼育による雄雌19組のものゝ、平均産卵粒數は79.30粒、平均孵化粒數は70.00粒、之等成蟲の蛹殻脱出後斃死に到るまでの平均壽命日數は、雄19.40日、雌23.10日である。

卵期間の日數は、室内飼育卵の方が、野外採集の成蟲が産んだ卵より、長いのは、扱つた質

験材料の産卵された時期が、野外のものより少しく早かつたため、温度が多少低かつたことが、斯の如き差異を生ぜる原因になつたものと考へられる。

斯の如く、野外花上で採集した成蟲を、室内飼育のものに比較すると、産卵粒数が極めて少なく、又、成蟲の壽命日數も著しく短かいことは、特に注意を要する點である。此事實は、野外花上に集來した大多數の「ヒメマルカツラブシムシ」の成蟲は、既に交尾産卵を終つたものが、其大部分を占めて居ることを物語るものであると思ふ。然れども、其うち少數のものは、未だ交尾又は産卵の途中にあるものが、何等かの機會を得て、野外に出て花に飛來したものと考へられる。之と殆んど同様の事實は、昭和15年に行なつた小觀察(文獻7)に於ても見られたのである。

此事實から推測すると、「フランスギク」花誘引驅除を行なふことが、全く無駄であると言ふことを得ないのは確かであると思ふが、此觀察實驗の結果から見ると、從來、一般に考へられて居た程に、誘花驅除の効果は、顯著ではないものと結論すべきであらう。

文 獻

1. 磯部辰雄 「ハナマルカツラブシムシ」
「チビマルカツラブシムシ」
「ヒメマルカツラブシムシ」 } 誘花防除法に就て、
病蟲害雜誌第四卷348—353頁「大正六年」1917。
2. 横山桐郎 最新日本蠶業害蟲全書121頁「昭和四年」1929。
3. 同 日本産蠶節蟲の研究(二)「ヒメマルカツラブシムシ」の形態並に生態、蠶業試験場報告第七卷第九號425—471頁「昭和四年」1929。
4. 矢後正俊 「ヒメマルカツラブシムシ」の集まる花と集まらぬ花の調査、病蟲害雜誌第二十二卷692—696頁「昭和八年」1933。
5. 廣瀬幸一 姫丸蠶節蟲防除の一策として集花驅殺の効果、昆蟲世界第三十八卷50—52頁「昭和九年」1934。
6. 山田保治 「ヒメマルカツラブシムシ」成蟲の集來する花に就きて、防蟲科學第三號27—31頁「昭和十四年」1939。
7. 山田保治
谷口久代 「フランスギク」花に集來する「ヒメマルカツラブシムシ」成蟲の數と其れが捕殺に關する考察。第一報。防蟲科學第四號35—45頁「昭和15年」1940。
8. 近末實義 毛織物を蝕害する蠶節蟲類の生態觀察、應用昆蟲第三卷第一號9—18頁「昭和十六年」1941。
「終り」